

2007 年度インターン研修を終えて

2007 年度インターン研修生としての研修時間は、学芸員という仕事を知るとても充実した機会でした。具体的には、展覧会のための資料作成や作品撮影の補助、カタログの校正、レセプションの運営補助といった指導学芸員の業務補佐が主な研修内容です。

主に携わったのが「イリヤ・カバコフ『世界図鑑』」展で、その企画段階からすると私に関わったのはほんの一部に過ぎませんが、それでも企画展がひとつの有機体のように創り出され、開催されて、また解体されていくその場を体感できたことは重要でした。企画展という大きな事業に巻き込まれていくような感覚と、そしてそこに自らの意図を込めることができる学芸員の創造的な仕事の醍醐味を垣間見ることができました。

一方で、多くの作品、人、企業が関わる企画展を構成しマネッジする学芸員の仕事が、高度な専門性を要するとともに、地道なものであり複雑多岐に渡ることもしりました。文献資料の調査や、外部との交渉、連携、さらにはコピーや宛名書き、チラシの袋詰めも学芸員の仕事の一部であり、重要な研修内容でした。こうして多くの業務と人々が絡む美術館という場には小さな社会があり、学芸員も社会を担うひとつの職業として捉えることができました。さらに、過去の資料整理や学芸員の方々との関わりを通して、共時的な場としてだけでなく長い歴史を持つ通時的な場としての美術館の重みも実感しました。

実践的に関わることで、ライフワークの現場としての大きな魅力を感じたとともに、社会という制度の中の職業として華やかさだけでは語れない実情が少なからずあることも知りえて、問題意識をもって学芸員という職と自分の未来とを考えられるようになったこともインターン研修の成果のひとつといえます。

整然と作品が並ぶ展示室をみただけではわかりえない、その周囲にある有機的な結びつきの端に、自分を繋げてみることでできた貴重な研修でした。この研修を終えて、何気ないお話や厚いご指導を通して多くの示唆を与えてくださった神奈川県立近代美術館の学芸員の方々に深く感謝するとともに、将来この機会が研修生個人としてだけでなくもっと広い意味で有意義になるよう努力していかなければと感じました。

2007 年度インターン修了者
(横浜国立大学大学院在学)